第１回庄内町立図書館協議会　会議録

１　開催日時：平成３０年５月２５日（金）午後７時～午後９時
２　開催場所：庄内町立図書館　２階会議室
３　出席委員：小野寺姫、小野寺博、松田透、信夫幸、舘林由美子、仲條一志
４　事 務 局：社会教育課長、庄内町立図書館長、係長、主任

１　開　　会

館長

いよいよ新図書館整備について整備検討会が立ち上り、第一回目の会議を終了。

今後、検討委員の皆さんのご意見を伺いながら基本計画に反映出来ればと考えている。

平成３０年度の図書館の運営については、昨年度の第２回目でも予告的に計画を提案しているので、加えて何か良いアドバイス等があったらご指導いただければと思っている。

２　あいさつ

図書館協議会委員長

いよいよ図書館整備が見えてきた。今迄の蓄積、更にまた新たな観点でやって行ければと思っている。

子ども読書推進では学校図書の活動が大変充実しており、子どもの読書について良い芽が育っている。子ども達の芽が良い方に向く様に、それが図書館の運営の中にも役立って繋がってくれればと思う。

社会教育課長

本日は第１回目の委員会。今年度の計画や昨年度の実績の協議をお願いしたい。

図書館本館の利用者は、残念ながら年々減少傾向にある。今後図書館整備に向けて図書館の存在をアピールし、整備の必要性を認識していただくためには、多くの町民の皆様から図書館に足を運んでいただくことが重要になる。そうした意味で今年度からの新規事業ということで「図書館まつり」等も計画している。内容についてもぜひご意見等いただきたい。

図書館整備の関係では、第１回目の検討会を５月１２日に開催した。当日は先ずはこの図書館の実態を目で見ていただいてからということにした。その上で基本構想等の説明を行った。委員の皆さんからいろんなご意見等出され、最後には図書館アドバイザーから助言をいただいた。次回は協議会と検討会の合同事業となるが県外視察を行うのでよろしくお願いしたい。

図書館の関係では、本庁舎整備事業の関係がある。現在保健センターの西側でアクセス道路の工事が進められている。今後は役場前の旧余目分署、図書館北側の車庫、保健センター北側の実測センターの解体工事に入ることになる。８月頃からは新庁舎の本体工事が始まり、図書館の利用者にはご不便をお掛けすることになる。

委員の皆さんからは任期２年目となるが、図書館と水彩画記念館の運営等について、活発なご意見と提言をお願いしたい。

３　内容

（１）報告事項

≪事務局説明≫

・平成３０年度図書館運営計画について
・平成３０年度庄内町立図書館協議会年間計画について
・平成３０年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
・平成３０年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

【委員長】報告事項なので前回も説明があったが、再度確認したいところとかあったらお願いしたい。

【委員】７月１４日のフォーラムは何時からか。

【事務局】午後２時からを予定している。

【委員】何時ぐらいまでか。

【事務局】タイムスケジュール的には４時１０分。町長も参加。町長も含め、満尾アドバイザーと懇親を深める会を予定している。

【委員長】他に何か質問等はないか。ないようなら次に進んでよろしいか。

≪事務局説明≫

・庄内町立図書館整備について

【館長】※検討会委員の公募者について説明。

【委員長】皆さんの方から質問をお願いしたい。

【事務局】※検討会委員の構成についての基本的な方針を説明。

【委員長】再開したいと思う。

【委員】自治会長会より推薦された委員はどこの行政区か。

【事務局】下幅集落の会長である。当初検討委員の地域的なバランスは想定していなかったが、結果的に、立川地域、余目地域、両方入っており、年齢も幅広く、男性、女性のバランスも結果的に上手く行ったので、非常に多様な意見が期待できる。商工会の推薦では、立川窯業の代表者となっている。

【委員】委員会のメンバーは積極的な発言が多かったか。

【事務局】初回なので新しい意見は出ずに終わることも予想されたが、「こういう図書館にしたい」という非常に前向きなご意見がたくさん出た。

【委員】公募の人達はいわゆる利用者的な立場からの参加となるのか。

【事務局】公募された方は、従来からの利用者である。委員全体としては初めての方もおられれば、図書館利用のベテランの方もあり、本当に多様な意見が出た。

満尾アドバイザーからも最後に指導助言として、「一般的には、閉架の方は意識されることはなく、図書館員は貸出・返却のカウンター業務だけと思われている中、資料の保存・検証という役割がたくさんある。そのあたりは通常目立つところでもなく、なかなか伝わりにくい部分でもある。庄内町の郷土資料を伝承して行くのは、民間ではできないことであり、これは庄内町として行政に求められていることだ。保存・検証の役割は重要である。そうした機能自体が、検討会で検証されることにより表面化させることができる」とあった。

これは閉鎖的で分かりにくい図書館の課題をあぶり出し、外部に認識してもらうことが大事であり、この協議会、検討会の存在の重要性に繋がっていくと思ったところである。その解決の仕組みづくりを新しい図書館に反映させて行くのが検討会の役割とお話を受けた。

【委員長】図書館である前に町立の公共施設で、使いたい人だけが使えばいいのではなく、より多くの人から利用されるべきである。そこを共通認識にして考えて行かなければならない。スケジュール等で他に何か質問等はないか。

【委員】協議会では話し合いに出て来なかったどんな意見が出されたのか。

【事務局】「記念館をどうするのか」という質問があり、記念館はそのまま生かして建設中は仮図書館としていきながら、図書館は現在地に建設する旨を説明させていただいた。

「もっと広い場所がいいのでは」、「駐車場の確保について心配はないのか」という意見も出た。課長から、今まで長年の審議の結果、結果的には現在地と答申が何度も出されていると説明させていただいた。斬新な意見としては、「地下を利用する」という意見も出たところである。ただ、図書館という性質上、本の管理は湿度が大敵ということもある。知恵を絞って色んな意見がどんどん出され、雰囲気がとても良かった。

図書館というところの課題のひとつだが、子育て世代の方から、子連れで来た時に静かにしなければいけないのが、足が遠のく一番の要因になっていたという意見が出された。静と動の共存、つまり、子連れで来ても気兼ねなく使えるような、動の部分をどう両立・共存させて行くか、だいぶ議論になった。

カフェについても興味が示された。中高生向きにどのような機能を持たせるか。今はフリーＷｉ－Ｆｉ等の環境整備がないと中高生はなかなか足を運んでくれない。これから新しい図書館になるにはそういった設備ということも十分踏まえて整えて行かなければならないと話が出た。

【社会教育課長】アドバイザーからは「中学生の利用促進には駐輪場の設備」も必要と指摘があった。

【事務局】中高生は当館でも一番ユーザーが少ない。なかなか時間が取れない世代で、本離れや図書館離れに頭を悩ませている。１０代が足しげく通って活気のある図書館は全国にはある。それをここの図書館でどう実現して行くかが検討課題である。

余目中学校の教頭先生と意見を取り交わす機会があり、「真面目な生徒達の居場所が欲しい」とお話があった。例えば人前でのアプローチが苦手な子や障がいなどがあって人との関りが難しい子を気軽に受け入れてくれる施設が町内にはなかなかないということで、その子達の居場所となるものを望んでいるということなので、そういう子達をきちんと受け入れるということも重要な役割と考える。そういう子達も安心して滞在できるような図書館にするにはどうあったらいいのかということを検討会でも協議会でも十分議論していただきたいと思った。

図書館の基本構想の中に利用率のデータがあるが、当然、ここに近い第一学区から順に遠くなるにつれ利用率は下がっている。その数字について検討委員から、「四小学区や立川地域のエリアに対する配慮はどうするつもりか」と質問があっ

た。説明としては、狩川公民館の中には分館機能があるので、そこを拠点として、アウトリーチサービスを展開して行きたいと説明した。本当であれば庄内町くらい長細い距離間のある自治体だとブックモービル車の設置が望ましい。立谷沢も含め全てのエリアに向けて定期的に回って、利用サービスを展開すべきだが、ブックモービル車は大変コストがかかるため、基本構想の中に盛り込んでいない。それをケアするためにも、これからも分館というところを大事にして、拠点としてサービスを展開して行きたいと説明をしている。

【委員長】私達の議論の中では子ども達の支援の部分は今までどおりと願いながらも、大人、退職者、壮年、老年をどのように受け入れるかという着眼も必要ではないかということも出たと思うが、そういった部分はどうか。

【事務局】高齢者よりも子育て世代の話題が多かった。満尾アドバイザーから、結局「何を優先するか」に最後は行きつくのだと話が出された。「最後は、子どもを優先させるのか、大人を優先させるのか、或いは両方なのか」というようなことを考えて行くと大変難しい問題である。

【委員】検討委員会でカフェコーナーの話も出たようだが、そういう意見はこれから始まる基本設計・実施設計にとどのように取り入れられて行くのか。

【事務局】皆様から出た意見を基にして基本計画を立てる。計画を立て、どういう図書館を庄内町は目指すのかという考え方を明確にする。それを基にして今度は設計のプロの方が私達の思いや考え方を図面に落とし込んでいく。もちろん業者さん任せではなく最後まで私達も関わりながら具体化して行く流れとなる。

　満尾アドバイザーからも、「全国的には様々な実例があって、基本計画がなく、すぐ基本設計をしている例もある。アドバイザーに相談に行く自治体もある」ということだが、本町では、きちんと目指すべき図書館像を確立してから設計まで繋げていくスタンスで臨みたい。

【社会教育課長】基本計画の中に機能や規模は盛り込む。それを踏まえて業者に基本設計を発注する。そのためにも基本計画は重要になる。

【委員】ある程度庄内町でイメージされたものが出来てくるのか。

【社会教育課長】業者にはこちらから指示する。全部業者任せにはならない。

【委員】これだけ計画が出来て、もう軌道に乗ったと受け止めたいが、私も１０年以上携わって来た経過を踏まえると、これにブレーキのかかる要素として、また別の施設が優先されるなどについて今考えなくていいのか。

【社会教育課長】庄内町が合併した時は、役場本庁舎には手を付けない方針だったが、変わったのは東日本大震災が発生したためである。今の役場本庁舎であのぐらいの規模の地震が来ると崩壊してしまう可能性があるので、防災庁舎として建設することとなった。

図書館は合併時から予定に入っていたが本庁舎整備が入って来たため、図書館はどのぐらいの事業費の制約が入って来るかわからない。

社会教育課としては、武道館整備という大きな課題もあるので、それも検討会を立ち上げ、同時進行で検討している。

【委員】人が集まる図書館を目指しているが、図書館に来たことのない人は、なかなか足を運びづらい。お年寄りの方が病院に集まっていることを考えた時に、「るんるんバス」のようなバスが色んな施設を回っているが、朝・夕図書館に寄ってくれれば図書館に人が集まるのではないか。または各地区敬老会事業、子ども会、各公民館少年教室等、「図書館に行こう」とイベントを組んで貰う等、バスを出して人を集めて来る。一回来て貰えば、足を運ぶようになるのではないか。

【委員】中・高生の利用が少ないが、今の小学生全校に「自分だったらどんな図書館に行きたいか」という提案を貰い、提案が叶ったら、来館する可能性もゼロではない。今の中学生だったら、成人したころに図書館が出来ると思うが、自分の子どもを「どういう図書館だったら連れて行きたいか」そういう構想を、学校から協力して貰い、図書館に対する考え方を学活で話し合って貰い、アンケートを取ってはみてもよいのではないか。これから育つ、利用して行く子ども達の意見も取り入れるのもいいのではないかと思った。

【委員長】パブリックコメントなんて難しい言葉は使わず「アイディア募集」と呼びかけるのはどうか。

【委員】広報で募集してもなかなか来ないと思うので、学校の方から協力して貰ったらどうか。

【事務局】庄内総合高校の「ふるさと探究プロジェクト」の授業で、「新しい図書館にアイディアを出して欲しい」とプレゼンテーションをし、「どんな図書館だったら行き

たくなるか」課題を投げかけている。とても重要な視点だと思っている。小中学生の意見も取り入れられたら、未来に向かって繋がって行く図書館になれるのではないか。

【社会教育課長】アンケート調査について、校長会に図ってはどうか。

【委員】将来を自分達で考えて行く発想はいいと思う。

【委員長】各学校も図書室が整備され楽しくなっているので、昔の図書館というイメージではない発想が出て来るのではないか。

【社会教育課長】どういう方法だとしやすいか。アンケート方式か。

【委員】自由に書いた方がいいのではないか。集約が大変だが自由な発想を求めたい。

【社会教育課長】対象学年は。４・５・６年か。

【委員】５・６年がよい。

【社会教育課長】中学生はどうか。

【委員】中学生もやって欲しい。中学生はそれなりの考えがあると思うので１・２・３年生もやって貰えるとよい。

【委員長】色んな部門のアイディアを募ることはよいことだ。

【事務局】７月のフォーラムで提案したい。子ども達のアイディアということで大人も奮起するかも知れない。

【委員長】図書館整備基本計画についてご意見なければ以上でよろしいか。フォーラムや視察研修にも
ぜひ参加していただきたい。

４　協議事項

≪事務局説明≫

（１）　庄内町立図書館事業評価平成２９年度分について

（２） その他

５　その他

次回：県内先進地視察研修について

６　閉会